



実りの秋、収穫の2学期 ～大きく成長した心と体～

正門前にある築山の紅葉も美しく色づき、猛暑の8月末から始まった長い2学期も、ようやくゴールが見えてきました。学校教育目標の「豊かな心とたくましい体を持つ子ども」の育成に向け、春の種まき、そして成長の夏をこえて、秋の実りの季節には、学校行事はもちろん、日々の授業で子どもたちと教員たちが本気で向き合う姿が学校のあちこちで見受けられました。友達ともめたり、先生から叱られたりと、笑顔ばかりの2学期ではなかったと思いますが、エネルギーを注入して毎日学校へ送り出してくださっている保護者の皆様、いつも子どもたちを見守り支えてくださっている地域の皆様には心から感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちの心と体が大きく成長した2学期となりました。



12月のテーマは『やさしさ』と『言葉づかい』

日照時間が急激に減少する11月～12月は、セロトニンというホルモンの分泌が減少し、大人も子どもも心と体のエネルギーが著しく低下する季節と言われています。すると、今まで気にならなかったことが気になりだしたり、イライラして友達とのトラブルを起こしたり、急に親や教師に反抗的になったりと、その子によって違いますが、不安な気持ちが様々な形で現れてくるが多々あります。以前、学校へ急に足が向きにくくなった女の子がいました。お仕事が忙しいお母さんに代わり妹や弟の世話も頑張っていた優しいお姉ちゃんでした。「心配な妹や弟のことばかりに気にしてしまっていました。」と話されるお母さんは、その夜から、お姉ちゃんとお布団に入り、手をつなぎながら眠られたそうです。何日目かの晩、お姉ちゃんが真っ暗な天井に向かってぽつぽつと話し始めました。そのお話をお母さんは「うんうん…」と聴いてくださったそうです。しばらくしてお姉ちゃんはまた、元気に学校へ向かうようになりました。子どもの世界には原因がハッキリしないことやすぐには解決できないことが沢山あります。私たち大人にできることは、子どもの気持ちを受け止め、『何があってもあなたの味方だからね』というメッセージを言葉や行動で伝えることであることを私はそのお母さんの姿から学びました。「これは大変だ!」と大騒ぎするのではなく、「そんなこともあるよね」とどっしり構えられる大人でありたいと思います。各ご家庭におかれましても、この季節はいつもより少しだけ多めに時間を作っていただき、お子さまの話に耳を傾けていただけると有難いです。

人権週間が始まります。子どもたちはテレビで覚えた流行りの言葉を軽い気持ちでつかいます。しかし、笑ってすませられる子もいれば、そうでない子がいます。この機会に、子どもたちとは「言葉」について一緒に考え、「相手を元気にする言葉」と逆に「相手を傷つける言葉」があること、そして、それは人によっても違うこと、自分が発する言葉はそのまま自分に帰って来ること…に気づいてほしいと思います。ご家庭でも、お子様やお友達のよいところや頑張っているところなど、一緒にお風呂に入ったりしながらぜひ話し合ってみてください。